



## 平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成29年2月8日

上場会社名 株式会社デジタルメディアプロフェッショナル 上場取引所 東  
 コード番号 3652 URL http://www.dmprof.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 山本 達夫  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部長兼CFO (氏名) 古川 聖 TEL 03(6454)0450  
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第3四半期の業績（平成28年4月1日～平成28年12月31日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	506	60.5	△226	—	△220	—	△313	—
28年3月期第3四半期	315	△10.4	△200	—	△194	—	△65	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	△115.53	—
28年3月期第3四半期	△24.43	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため、記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	1,785	1,702	95.2	624.76
28年3月期	2,244	1,999	88.9	736.12

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 1,699百万円 28年3月期 1,996百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	0.00	—		
29年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成29年3月期の業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	700	△4.6	△270	—	△270	—	△360	—	△132.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

※詳細は、添付書類P3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

29年3月期3Q	2,719,800株	28年3月期	2,711,800株
29年3月期3Q	119株	28年3月期	119株
29年3月期3Q	2,716,150株	28年3月期3Q	2,695,835株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
(2) 追加情報 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における世界経済は、米国の金融政策の方向性に注目が集まるとともに、政権移行による新たな政策への期待や保護主義の懸念が交錯する不透明感の強い展開となりました。欧州では、英国のEU離脱問題や南欧諸国の債務問題等が払拭されず、先行きが懸念される状態で推移しました。新興国においては、米国の金利政策変更の影響が為替に影響し始め、景気の減速感が強まる傾向にあります。

一方、日本経済は、企業収益が緩やかな回復基調で推移するとともに、雇用・所得環境の改善が続いておりますが、為替・金融市場の大きな変動による影響が懸念される不安定な状況にあります。

当社の属する半導体業界では、スマートフォン分野の減速が続いているものの、メモリーや車載機器、産業機器向け半導体が好調を維持しております。

当社の事業領域であるビジュアル・コンピューティング関連分野においては、従来のGPU用途に加え、大量のデータを複数のプロセッサを用いて同時に処理するGPUの並列処理に着目したディープラーニング(深層学習)やAI(人工知能)分野への応用が強く期待されており、今後到来が予見される自動運転やIoT(モノのインターネット)時代へ向け、この分野へ注目が集まる状況が続いております。

このような環境下において、当社は、引き続き中期経営計画に掲げた収益基盤の再構築を図るため、各事業分野において施策を展開してまいりました。当第3四半期においては、IPコアライセンス事業において、前四半期より提供を開始した高性能GPU IPコア「M3000」シリーズの営業活動を推進するとともに、既存のIPライセンスの受注活動に注力してまいりました。SoC/モジュールビジネスにおいては、アミューズメント向けグラフィックス半導体「VF2」の販売活動を継続しております。また、プロフェッショナルサービス分野においては、株式会社バンダイナムコエンターテインメントとの共同開発による画像処理プロセッサ「RS1」の開発を推進するとともに、前四半期において国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)より委託を受けた「省電力AIエンジンと異種エンジン統合クラウドによる人工知能プラットフォーム」の開発を進めております。

業務資本提携先である株式会社UKCホールディングスとの取り組みにつきましては、引き続きSoC/モジュールビジネス分野およびプロフェッショナルサービス分野において共同で営業活動を展開しております。

研究開発分野では、ディープラーニング等の最先端のAI技術を活用した製品ラインナップで構成されるプラットフォーム「ZIA」(ジア)を発表し、その第1段としてディープラーニングによる動画像認識を効率的に行う「ZIA Classifier(ジア クラシファイア)」を開発いたしました。また、NEDOプロジェクトである「省電力AIエンジンと異種エンジン統合クラウドによる人工知能プラットフォーム」の研究開発を本格化させております。

当社は、これらの研究開発から得られた成果を中長期的な事業展開の中で有力な収益基盤とするべく育成してまいります。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は、次世代画像処理プロセッサ「RS1」およびNEDOの受託開発売上を計上するとともに、既存顧客からのランニングロイヤリティ収入ならびに保守サポートによる収入を計上したことにより、506百万円(前年同期比60.5%増)となりました。利益面では、「RS1」開発に伴う研究開発費の発生により、営業損失226百万円(前年同期営業損失200百万円)となりました。なお、近時の急激な為替相場の変動により為替差益5百万円が発生したため、経常損失220百万円(前年同期経常損失194百万円)となりました。特別損益につきましては、前事業年度において株式を売却したカナダ・コグニビュー社の株式売却代金のうち一部留保されていた9百万円を平成29年3月期第2四半期会計期間において受領したため特別利益が発生しておりましたが、その後当第3四半期会計期間において株式売却代金の最終清算金3百万円を受領したことにより特別利益13百万円を計上いたしました。また、画像処理半導体「VF2」に係る固定資産の採算性の再評価を実施し減損処理を行ったことにより特別損失106百万円を計上し、四半期純損失は、313百万円(前年同期四半期純損失65百万円)となりました。

当社は、単一セグメントであります。事業の傾向を示すため、事業別の業績を以下に示します。

#### ① IPコアライセンス事業

IPコアライセンス事業においては、既存顧客のライセンス収入および保守サポートによる収入を計上したことにより、売上高は190百万円となりました。

#### ② L S I 事業

L S I 事業では、グラフィックス半導体「VF2」の性能評価ボードを販売したことによる売上を計上し、売上高は0百万円となりました。

#### ③ その他の事業

その他の事業においては、その他の事業では、次世代画像処理半導体「RS1」およびNEDOの受託開発売上等をプロフェッショナルサービスの売上として計上したことにより、売上高は315百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は1,660百万円となり、前事業年度末に比べ324百万円減少いたしました。主な変動要因は、現金及び預金が19百万円減少し、受取手形及び売掛金が315百万円減少したことによるものであります。また、固定資産は125百万円となり、前事業年度末に比べ134百万円減少いたしました。主な変動要因は、「VF2」に係る固定資産の減損処理を行ったことにより無形固定資産が106百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債および固定負債は合計で82百万円となり、前事業年度末に比べ162百万円減少いたしました。主な変動要因は、買掛金が181百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は1,702百万円となり、前事業年度末に比べ296百万円減少いたしました。主な変動要因は、四半期純損失の計上により利益剰余金が313百万円減少し、ストックオプションの行使により資本金および資本準備金がそれぞれ7百万円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、当第3四半期累計期間における業績の進捗および第4四半期以降の経営環境を踏まえ、平成28年5月11日に公表いたしました平成29年3月期の通期業績予想を変更いたしました。

詳細につきましては、平成29年2月8日公表の「営業外収益(為替差益)、特別利益、特別損失の計上および平成29年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、これによる当第3四半期累計期間の損益に与える影響はありません。

(2) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	860,339	841,251
受取手形及び売掛金	440,593	125,320
有価証券	649,471	646,577
たな卸資産	8,187	2,243
その他	25,993	44,720
流動資産合計	1,984,586	1,660,113
固定資産		
有形固定資産	50,583	43,211
無形固定資産	157,158	10,787
投資その他の資産	52,631	71,531
固定資産合計	260,374	125,530
資産合計	2,244,960	1,785,643
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	181,883	—
未払法人税等	3,761	4,583
その他	40,721	59,577
流動負債合計	226,366	64,160
固定負債		
繰延税金負債	2,971	2,673
資産除去債務	15,930	16,108
固定負債合計	18,901	18,781
負債合計	245,268	82,942
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	949,730	957,280
資本剰余金	968,941	976,491
利益剰余金	79,733	△234,074
自己株式	△155	△155
株主資本合計	1,998,250	1,699,541
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2,130	△392
評価・換算差額等合計	△2,130	△392
新株予約権	3,572	3,553
純資産合計	1,999,691	1,702,701
負債純資産合計	2,244,960	1,785,643

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	315,698	506,546
売上原価	90,641	171,915
売上総利益	225,056	334,630
販売費及び一般管理費	425,079	561,143
営業損失(△)	△200,023	△226,512
営業外収益		
受取利息	2,875	1,229
為替差益	312	5,218
有価証券売却益	2,509	—
その他	—	1
営業外収益合計	5,698	6,449
営業外費用		
有価証券売却損	—	600
その他	107	—
営業外費用合計	107	600
経常損失(△)	△194,432	△220,663
特別利益		
投資有価証券売却益	128,960	13,745
新株予約権戻入益	228	19
特別利益合計	129,188	13,764
特別損失		
減損損失	—	106,496
固定資産除却損	266	—
特別損失合計	266	106,496
税引前四半期純損失(△)	△65,509	△313,394
法人税、住民税及び事業税	712	712
法人税等調整額	△359	△298
法人税等合計	352	414
四半期純損失(△)	△65,862	△313,808

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。